

お詫

一月十六日のオープニングに始まり、十八日、十九日のワークショーフォードに至るまで、これらの一つ一つの、とか家族的な雰囲気の中で聞かれたこと、言葉の分からぬ私達でしたが、皆さんの笑顔に触れながら、十分に樂いひとときと共にできましたこと、何より有難いことでした。

オープニングにいらしゃった方から、これまになに七十有余名の数を數えたり、その中には、これもあまりいらしゃったことの大澤の放振の方々等もみたところと、これらのこととはアノテ様が、これまた積み重ねられてきた成果がこの数字に表われていると思ひます。また、さまでまた機関との信頼關係を築いてきて、たゞアーティスト(森鷗外記念館の發展)の人徳によるところも大きいと思います。

日本文化普及センター
アーティスト

この午後は独協会協会のナオカ木・眞澄様と
お会いし、ベルリンで展示会が終わったら、こちらに作品を
販売しておこうとしたので、快諾して頂いた。

昨日、うちからアーティスト様の方へ直接の電話を入れるま
でして、こちらからは預けて行った案内ハガキを渡して、加藤
の情報も(コピーしたもの)お伝えしておきました。

お戻戻前とおとも言つてあります。作品の引き渡し方は
眞澄様のところへお願ひします。

いろいろとお世話になりますが、どうぞお預け下さい。あすます。

充実したベルリン、フランスフルトの間で、ベアーテナンスの木を
退職に向かふれぐもお体に気をつけござ無理を

なさないで御ります。感謝をこめて

二〇二〇年一月二十四日

吉見翠平

※大きくなれない残る旅とおもふ

吉見有二

中尾厚子

また、十八日、十九日のワークショップも家庭的な雰囲気の中で、
和氣藹^{あい}藹^{あい}に進^{すす}みのしかったことも有難いことでした。十八日は、
書道座^{しょだくざ}何^{いか}知^りな^いへほりめての体験をする人と開催して、書
石の背^{せき}や、墨^{すみ}の磨^つき方^かから筆^{ふで}の持^もき方^か、運^うい方^かを学び、其効
に取^とり組まれた結果、うちわの上に仕上げた作品は、ほんと
筆^{ふで}を握^つたとは思^はわれない作品になってしまった。受講^{じゅこう}一人一人の
満足^{まんぞく}した表情^{ひじょう}をもたらすことができました。

二日目のワークショップでは、すすめに経験者だけあって、大胆
な筆^{ふで}さはさむて一人一人の個性^{こくせい}的な作品を仕上げることができ
たが、自信^{じゆ}もって展覽^{てんらん}今等にあり得^{する}ことをおぼり
ます。そして、日本文化の発信者^{はっしんしゃ}になれるべくと思^{います}。
受講^{じゅこう}された方が^うお許^{ゆき}すメールが届いていることが分かり嬉^{うれ}しい

(だよ)

から

かうたで、特に初心者の方へれがう書道を習いたいと
声を聞いた時はワーランダとやって本当によのうだと思
う。

展示については、スヤースの因縁で三十作品は飾り下さい
（小宮と聞いてあうやうしたので、何本かの作品は日本へ持ち
帰らなければならぬと覚悟してきました。勿、二室の空間
を上手に使ってソトドミ、表紙の色、紙の色や大きさ等を之
素直にレイアウトしてソトドミ一つ一つの作品が重複せ
ず輝いて見えました、アリ山と云ふといいました

思い通りでも搬入時に肝心要の百折不回いを含む四本
の作品が届いていないこと分かる時、當時は、ひづれられ
オーナーシップはどうあるまうじと、大変申しわけない気持ち

にすりおこりたが、さまたが子な体験をされ、それで何度も何度となく

乗り越えていらっしゃったベアーテ様の機転のきいた配慮

に大変氣もちが悪になり救われた気持ちになりました。

オーバニンゲンもワーラッピングも、ベアーテ様が思い描いていたし

やうな構想が予想以上のものもあつたと喜んでいた。私としても

娘めいわと一緒に来て下さった家族の大変喜んでくれました。

昨日(一月二十日)、家族四人でベルリン市内を観光する中で、
ブランデンブルク門のそばのホテルで、二泊三晩の乾杯を

(手書き)

さうに、ブランデンブルク門の書展の詰め合ひたのり、この「春陽外
記念館」での書展のあつたればこそと思つて参りました

終戻墨か巡回展をやるうちに、この書展も没後百年に

春陽外

向けて巡因展が開かれ、カーフェリ日本橋の橋脚下に設けられ

提了七加三、小六錢，入局。至申

オフヘンバフハでのプレゼンテーションは、野田裕美子様が
アロジックターを使って日本の国名である、漢字やかなにつりて送網

十六、その漫録をうけて篆書の文字や隸楷、行草の

文字を実演していきやうな(五正月)ことを喜んで

力合の説明をすれば、復讐とか争取りの調和味の所が、

聖書うと田の中から書き出る(毒ど人と共によろ。ウタ
ウタ)

最後下書き初めレヒテ松竹梅レアリモ草書

柳井 柳と重き、柳

「アラレで、ソーテーランツ、アリと、アリは野田梅子さん

この日がたのに、私がさきの話と同
じたことをかねて編曲した曲

浪天乞少郎云